

鉄の造形 **武田美通** 全30作品展示
TAKEDA YOSHITOH

手榴弾のピンを抜いた。



乳飲み子を抱いた母は、

「戦死者たちからのメッセージ」

2017.5.27(土) → 6.7(水) 5月28日(日)、6月4日(日)は閉室です。

閉室時間 10:15~16:00

会場 恵泉女学園大学 南野キャンパス:ラーニング・コモンズ

映画上映会 「戦ふ兵隊」 10:30~11:30

アクセス: 小田急線、京王線、多摩モノレール 多摩センター駅より、スクールバスで 10分(無料)

(制作:1939年 監督:亀井文夫)

ご案内: 詳細は恵泉女学園大学HPをご覧ください。 <http://www.keisen.ac.jp>

記念講演「時代を問う〈鉄の造形〉たち」

講師 杉田明宏(大東文化大学)

☆合唱付き・ブラックライトシアター『むらさき花だいこん』も上演されます。

出演: 東京紫金草合唱団・府中紫金草合唱団

2017年5月27日 13:30~15:30 (13:00開場 出入り自由)

J 202教室

主催 武田美通「鉄の造形」「戦死者たちからのメッセージ」を広める会、恵泉女学園 花と平和のミュージアム
共催 恵泉女学園大学 平和文化研究所

【お問い合わせ先】 恵泉女学園 花と平和のミュージアム多摩キャンパス窓口: 恵泉女学園大学 研究機構事務局
〒206-8586 多摩市南野2-10-1 TEL.042-376-8371 E-mail: museum@keisen.ac.jp, <http://www.keisen.ac.jp>

本作品展について

上村英明

恵泉女学園大学・大学院 教授



「花と平和のミュージアム」は、2017年5月に、鉄の造形作家・武田美通たけだ よしとさんの作品をお預かりすることになりました。総務省の人口統計によれば、2014年に日本の総人口に占める「戦前生まれ」は初めて2割を切りました。直接戦争を体験した人々が2割を切る今、空襲、被爆、飢餓などの体験の伝承を中心に構成されることの多かった日本の平和教育は岐路にあるといえるでしょう。そうした中で戦争というものを追体験する可能性のひとつは、「リアルに想像する」作品に触れることです。武田さんの鉄の造形作品から、戦争の理不尽さ、平和の大切さ、そして日本という国家の無責任さを「リアルに想像」する機会を作ればと期待しています。

恵泉女学園 花と平和のミュージアム実務委員会委員
恵泉女学園大学 平和文化研究所所長

【武田美通 略歴】

1935年北海道小樽市生まれ。早大卒。

皇国の少年として育ち、国民学校(小学校)一年の時太平洋戦争に突入、四年で敗戦を迎える。大学で社会学を学び、日経新聞の記者を経てテレビ東京勤務。60年安保の取材をスタートに、激動の「昭和」後半を目撃、海外取材を含め36年間のジャーナリスト生活を送る。とりわけ少年期からのテーマ「戦争とは、国家とは、軍隊とは」のもとに、アメリカ海兵隊や自衛隊などの取材に力を入れた。

60歳を前に転身、造形作家の道に進む。2004年より作品展を開催、2010年7/17～9/4丸木美術館にて個展開催。2011年多摩市平和展にて全作品展。2016年5月15日急逝。

☆「花と平和のミュージアム」新たな展開のおしらせ☆

恵泉女学園 花と平和のミュージアムは武田美通氏の鉄の造形作品、福島菊次郎氏の写真作品を、学外の方々にも「平和学習」の機会にご活用いただく準備を始めます。

多摩地域の小・中・高校生を対象としたさまざまな「平和学習」の授業、今回のようなイベント企画への参加、作品の貸出しによる各学校内での小さな展示会の開催や、本ミュージアムへの作品見学などを通して、作品に触れ、平和を考える機会を地域の教育機関、学校に柔軟な形で提供していきます。ぜひご活用ください。

お問い合わせ：恵泉女学園大学 研究機構事務室 Tel. 042-376-8371 Fax. 042-376-8426

E-mail:kenkyujo@keisen.ac.jp、 <http://www.keisen.ac.jp>



「靴を喰らう兵士」



「残された数秒の母子のいのち」



「一瞬の閃光が少年と犬を貫いた」